

平成30年度 事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

学校法人 谷岡学園

〈大阪緑涼高等学校〉

学校法人谷岡学園 平成30年度 事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1 法人の概要

1 設置する学校・学部・学科等

(1)大阪商業大学

大学院 地域政策学研究所 地域経済政策専攻、経営革新専攻
経済学部 経済学科
総合経営学部 経営学科、商学科、公共経営学科(平成30年度より募集停止)
公共学部 公共学科

(2)神戸芸術工科大学

大学院 芸術工学研究科 芸術工学専攻、総合アート&デザイン専攻

芸術工学部 環境デザイン学科、プロダクト・インテリアデザイン学科
ファッションデザイン学科、ビジュアルデザイン学科
まんが表現学科、映像表現学科、アート・クラフト学科

(27年度より募集停止)

先端芸術学部 まんが表現学科、映像表現学科、クラフト・美術学科
デザイン学部 ビジュアルデザイン学科、ファッションデザイン学科、
プロダクトデザイン学科、環境・建築デザイン学科

(3)大阪商業大学高等学校

全日制課程普通科

(4)大阪商業大学堺高等学校

全日制課程普通科

(5)大阪緑涼高等学校

全日制課程普通科
全日制課程調理製菓科

(6)大阪商業大学附属幼稚園

2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況(平成30年5月1日現在)

(1)大阪商業大学

※1…平成30年度より募集停止

学部等	学科[専攻]		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 地域政策学研究科	地域経済政策専攻	博士前期課程	10	20	3	6
		博士後期課程	3	9	3	5
	経営革新専攻	修士課程	10	20	5	7
	計		23	49	11	18
経済学部	経済学科		300	1,360	351	1,523
	計		300	1,360	351	1,523
総合経営学部	経営学科		400	1,440	462	1,521
	商学科		150	600	172	644
	公共経営学科※1		—	450	—	523
	計		550	2,490	634	2,688
公共学部	公共学科		250	250	253	253
	計		250	250	253	253
合 計			1,123	4,149	1,249	4,482

(2)神戸芸術工科大学

※1…平成27年度より募集停止

学部等	学科[専攻]		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 芸術工学研究科	芸術工学専攻	博士後期課程	6	18	1	6
		総合アート&デザイン専攻	修士課程	27	54	32
	計		33	72	33	60
芸術工学部	環境デザイン学科		70	280	72	311
	プロダクト・インテリアデザイン学科		70	280	68	287
	ファッションデザイン学科		50	200	41	160
	ビジュアルデザイン学科		80	320	91	320
	まんが表現学科		45	180	35	155
	映像表現学科		45	180	55	210
	アート・クラフト学科		40	160	29	133
	計		400	1,600	391	1,576
先端芸術学部	まんが表現学科※1		—	—	—	8
	映像表現学科※1		—	—	—	10
	クラフト・美術学科※1		—	—	—	5
	計		—	—	—	23
デザイン学部	環境・建築デザイン学科※1		—	—	—	9
	プロダクトデザイン学科※1		—	—	—	5
	ファッションデザイン学科※1		—	—	—	7
	ビジュアルデザイン学科※1		—	—	—	12
	計		—	—	—	33
合 計			433	1,672	424	1,692

(3)大阪商業大学高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	325	375	1,250

(4)大阪商業大学堺高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	360	538	1,420

(5)大阪緑涼高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	130	109	312
計	130	109	312
全日制調理製菓科	60	53	53
計	60	53	53
合 計	190	162	365

(6)大阪商業大学附属幼稚園

保育年限	募集定員	収容定員	入園者数	園児数
3歳児(3年)、4歳児(2年)、5歳児(1年)	60	170	46	156

3 役員・教職員の人数

(1) 役員(平成30年5月1日現在)

理事	理事長	谷岡一郎	監事	岡山栄雄
	常務理事	中井節雄	監事	西村義明
	理事	谷岡瑞子		
	理事	齊木崇人		
	理事	佐藤賢治		
	理事	加藤幸江		
	理事	常岡裕之		
	理事	片山隆男		

(2) 評議員(平成30年5月1日現在) 20名

(3) 教職員(平成30年5月1日現在)

学校名	教員・研究員	職員	合計
大阪商業大学	219(110)	162(22)	381(132)
神戸芸術工科大学	229(131)	83(20)	312(151)
大阪商業大学高等学校	110(41)	17(1)	127(42)
大阪商業大学堺高等学校	127(50)	14(0)	141(50)
大阪緑涼高等学校	56(22)	21(6)	77(28)
大阪商業大学附属幼稚園	16(4)	3(2)	19(6)
合計	757(358)	300(51)	1,057(409)

※()は非常勤教職員(内数)、法人職員は大阪商業大学に含む。(役員関係及び兼務者は除く。)

2 事業の概要

大阪緑涼高等学校

(1) 学校基本領域

自校教育に力を注ぎ、生徒たちに世に役立つ人物に近づくよう、教育目標が理解できる教育を行いました。自分の学校を理解することで愛着がわき、その中で教育を受けることで生徒自身の誇りや自信にもつながると確信して実践しています。谷岡理事長(大阪商業大学学長)の「建学の理念」講演に加え、1年生には校長講話で建学の理念と教育目標について生徒の理解が深まるように分かりやすく教示しました。また、校歌の練習もこれまでは3学年が卒業式前に行うことだけが慣習でしたが、各学年で実施しました。次年度も自校教育に力を注いでいきます。

組織の指揮については、学習や進路支援・生活指導・広報活動のすべてにおいて、生徒の成長や保護者の希望を第一に考慮して親身・丁寧に教育すること、教員間・職員間・教職員間の情報連携と協力が必要であることを説明し、教職員の理解を得られるように務めてきました。教職員の個々の努力はもちろんのこと、助け合う・協力し合うことで大きな成果が得られることが分掌・委員会それぞれに実感できた1年であったと考えています。

2017年度の入学生は90名と激減しましたが、今年度は162名の新入生を迎えることとなりました。また、一部のコースで男女共学となり、男子生徒は、普通科文理ハイレベルコース5名・調理製菓科調理師コース16名・製菓衛生師コース1名の合計22名が入学しました。

平成31年度には新コースとして普通科に保育系進学コース・総合進学コースを開設した。総合進学コースでは2年次に「地域と社会系統」「言語と文化系統」「理数科学系統」と三つの系統に分かれて学習する新たな試みもあり、さらに全学科男女共学となったことから、多くの男子が入学することとなりました。様々な事柄に対して臨機応変に対応できることが必要とされ、管理職中心に分掌・学年等と慎重に幾度も検討してきました。特に総合進学コースにおいて三つの系統でどのように教育・指導していくか議論を重ね、それぞれの系統について全教職員に周知し、共通認識できる機会を複数回設けました。保育系進学コースでは、保育技術認定1級の取得を目指した学習内容をバランスよく専門の教員から学ぶことで保育士・幼稚園教諭に必要な知識や技術をいち早く身に付ける体制を整えました。また、普通科と調理製菓科の教員が両科の教育や特性を理解し、総合的に生徒の教育・指導・進路を考えて支援していく土壌を固めてきました。

クラブ活動では、一部男女共学の措置に関して男子生徒に希望調査を行い、新たに男子バスケットボール部を創部し、活発に活動しています。また、次年度全学科男女共学に向けては、入試渉外活動の際、各中学校に男子クラブの要望をお尋ねし、管理職・渉外を中心に生活指導部の協力のもと検討を進め、男子クラブを創設する対策を講じました。文理ハイレベルコース・調理製菓科両コースともにコースの特性上、7限目・8限目の授業があることからクラブへの参加は難しいと考えていましたが、生徒たちから積極的にクラブへ参加したいとの意見もあり、短い時間でもクラブ活動を楽しんでいる様子です。男子生徒が加わったことで、昼休みのグラウンド使用等の要望もあがり、活気あふれる中でも規律を守ることができる学校づくりに改革中です。

進路指導に関しては、本校講師による勉強クラブなどの放課後学習を行いました。例年、学力向上を目的とし外部講師による大学受験セミナーの無償実施や英検セミナーを実施してきていますが、文理ハイレベルコースでは、外部講師の支援を受けず本校教員の指導を最優先した体制で進路学習に取り組みました。上位の大学に合格できるよう教員の指導力や意気込みに期待しています。

生徒と保護者対象のアンケート調査において、本校へ入学したことに対しては、生徒・保護者ともに半数以上が満足しており高評価でした。特に、3年生の評価が高く、今後は全学年で高評価になるような取り組みが必要と考えています。また、教員の生徒・保護者への対応や指導が丁寧で熱心であるという点においても高評価でした。一方で、いじめ防止や人権問題について評価が低かったことから、今後は、いじめに

対する調査や指導に更に力を入れていく必要を感じています。生活指導面である身嗜みや校則についての理解度は高く、指導も徹底されており、高校生活に関しても緑涼祭や芸術鑑賞、課外活動など充実している様子でした。

次年度に向けて建学の理念に基づいて更なる教育の充実をはかり、自校教育とともに心の教育も行い、生徒に学ぶ楽しさ・意義を丁寧に教え、教職員と生徒が一丸となり思いやりと礼節があふれる学校づくりに邁進していきます。

(2) 学習指導領域

今年度卒業生・保護者には、併設短大の閉学にもなう進学保障として、他短大の指定校推薦枠の増枠と受験料・入学金対策の拡大をしっかりと説明し、多くの短大進学希望者が利用しました。生徒・保護者への説明を今年度も改めてしっかりと行ったことから不満等を聞くことはなく混乱もありませんでした。

平成 30 年度の大学受験セミナーは、これまで外部講師を主体とした形態を継続しながら(1, 2 学期の通塾制は「高学館」が担当、3 学期の講座は「岡本カンパニー」が担当、)本校講師による普段の授業の振り返りを目的とした勉強クラブなど放課後学習の充実を図ってきましたが、生徒の積極的な学習には結びついていない現状が伺えました。放課後学習のあり方の見直しが必要で、外部委託する場合でも本校教員と外部講師が情報交換しながら、各生徒の目標や習熟状況を把握し一人ひとりの生徒を成長させるための連携が必要となることを確認し、次年度の方針を立て直しました。

文理ハイレベルコースでは、国公立大学や有名私立大学を目指すために 5 教科の基礎力の向上は勿論のこと、定期考査においても大学入試の模擬テストレベルの問題を出題するなど発展的な学力づくりに努めてきました。結果、少しずつではあるが、生徒自身の進学への意識も向上し、積極的な自主学習の体制が整いつつあります。英語検定試験も目標値を達成しています。

調理製菓科では、各専門分野におけるコンテスト出場を積極的に参加するように周知した結果、製菓衛生師コースの生徒が、第 9 回全国和菓子甲子園において地方大会を勝ち抜き、決勝戦に出場し、奨励賞を受賞しました。また、調理師コースでは、放課後に調理実習室を開放し、指導者が付きながら希望者に対して包丁の特別特訓やおせち料理の講習会が行われました。

授業全体に関しては、生徒へのアンケート調査の結果、「生徒の習熟度や様子を確認しながら教科の目標に沿った分かりやすい授業が行われているか」「授業内容や模擬試験が進路に対応しているか」についても満足度が低いことから、次年度に向けて改善する必要があります。教員研修を定期的に行ったり、さらに公開授業のあり方を検討して有効に役立てたり、外部の研修に参加した教員によるフィードバック研修を校内で行ったり、進路指導部と学年・教科が情報共有しながら効果的な指導を行っていく必要性があります。これらについては、今年度も少しずつ改革してきたが、次年度に向けて本格的に準備を整えています。一方、本年度に関しては、英語検定や漢字検定など希望する級に合格するような指導や将来の必要性などについて十分指導が出来ており、学習に対する質問や高校生活に関する相談等の評価が高いことから、自習室を増やしたことや教員が積極的に生徒の自習学習に対してサポートしてきた成果が伺えました。特に、定期試験前には自習室に多数の教員が自発的に行き、個別に勉強を教え、質問に来る生徒に対して丁寧に答えている状態を作ることができました。

また、学期ごとの欠点補習(単位取得とは無関係)を行うことを決定し、教員の協力を得て学期ごとに行いました。学期ごとに分からない箇所を積み残さず、3 学期の追試験に至らぬように、追試験になっても分からない部分を少なくするために、手厚い教育を実践できました。次年度は、欠点補習を行事予定に盛り込んでいくことが決定しています。生徒も保護者も安心できる手厚い教育を今後も学校として推進していきたいと考えています。

(3) 生活指導領域

身嗜み指導について、「教員個々の力量に頼らない生活指導と抑止力に繋がる」ことを目的としたポイント

ト制を実施していますが、軽微な違反や分かりにくい化粧への注意が行き届いていない状況です。また、注意だけではなく、生徒たちに声かけをし、丁寧に分からせる指導が必要で、教員間で課題の共有をしています。

携帯電話・スマートフォンの取り扱いについて、安易に考えている生徒が多く、休憩時間の使用についても全体の注意喚起を行ってきたが、次年度は、一層生徒自身に考えさせる指導を学校全体で行っていきます。

遅刻指導は、その経緯や回数によって懲戒を行う等の指導を行っています。今年度は生徒数が増加したにも関わらず、懲戒に当たる生徒はいませんでした。次年度は教員の出勤時間を 5 分早めて朝礼を行い、各クラスで行われる朝の読書開始の 8 時 30 分には担任が各教室に入って指導を行うことを決定し、遅刻がない体制作りを整えました。

また、生徒会による「挨拶の励行」「校内美化」「身嗜み週間」など愛校心を高めるための活動に取り組みました。また、藤井寺駅から校門までの通学路の清掃や藤井寺駅構内での義援金活動も実施し、地域の方々にも喜んで頂き、生徒たちの自治意識を喚起していく活動が出来ました。

今後も生活指導部を中心に様々な取り組みを検討し、積極的な活動の継続支援・指導が必要です。

いじめ問題については、関連委員会・学年の議事録を正確に記し、保健室(養護教諭・カウンセラー)・学年・管理職と情報共有し、早期発見・早期対応を心掛け取り組むことが出来ました。しかし、アンケート調査は、1 回しか行うことが出来ませんでした。

保健室運営並びにカウンセリング体制において、男女共学化に備えた改善が必要であることから、カウンセリング施設のあり方について検討し、2019 年度は場所を移動させ、生徒がより相談しやすい環境を整えることとなりました。

生活指導全般に関しては男子生徒への対応があらたに求められる中、今まで推進してきた人としての基本「思いやりと礼節」の発揮、「挨拶の励行」を実践できるように指導し、穏やかな生徒・礼儀正しい生徒・学習意欲のある生徒を育成してきました。特に罰則に関しては、厳しい罰則を与える指導を見直し、何がいけないのかしっかりと教育・指導できるように規定の見直しを行い、懲戒よりも反省し改善できるように次年度より大幅に改定したあらたな内規で指導していく準備を整えました。

(4) 進路指導領域

特別編成クラスの生徒には、これまで外部講師を主体とした大学受験セミナーの受講と英語検定セミナーの受講を義務付け、大学受験セミナーに通塾システムを取り入れていました。特に、通塾に関しては主に塾の自習室を自由に使えたことにより、いつでも勉強が出来る環境にありました。学習する環境が自身の受験意欲の向上に繋がった等、一定の評価はありましたが利用は少なかったです。

進路に関して、4 年制大学は 22.9%、短期大学は 32.2%、専門学校は 23.7%、就職は 12.7%、家事手伝い等 8.5%という結果でした。また、受験区分を見ると 4 年制大学では公募推薦、短期大学は指定校推薦、専門学校では AO 入試が多く、一般入試ではほとんど受験しませんでした。以上の結果から、生徒の進路希望を早期に把握し、指定校枠の増枠や新規開拓を行うほか、AO 入試・推薦選考に必要な「志望理由書」「エントリーシート」「自己推薦書」の書き方、「小論文」の書き方、面接などの指導を早期より丁寧に実施する必要があります。今年度は、教育アドバイザーや管理職の力添えもありましたが、指導体制が組織的に不十分であった結果、不安に感じている生徒が見受けられました。今後は慣例にとらわれることなく進学先の情報を集約し指導することが出来るように校務分掌や学年・担任が連携し、生徒に寄り添いきめ細かい指導が出来る体制づくりが必要になります。このことについては、運営委員会・職員会議を通じて教員は共通認識を持ち、次年度においては総合の時間やロングホームルームを活用し推進します。

特待生の進学・進路調査を行った結果、S 特待生が必ずしも 4 年制大学へ進学していることはなく C 特待生の生徒が 4 年制大学へ進学しており、S 特待生も就職しています。これらの結果から特待生と進学・進路は結びついておらず、特待生制度のあり方も入学生の現状を踏まえて検討する必要があります。

大阪商業大学との高大接続・連携については、谷岡学長の特別講演を始め、大阪商業大学から講師を

派遣して頂き、「ビジネスアイデア甲子園」の考え方・アイデアの出し方などを学習しました。それを受けて 2 学年からプレゼンテーション要旨を作成し・発表を行いました。また、大学のオープンキャンパスや本校で小論文の書き方など入試対策にも協力を頂いたが、今年度は大阪商業大学への進学には結びつきませんでした。平成 30 年度以降の入学生には男子生徒もいるので、系列校への関心を高める指導を十分に行って、高大接続を強化していきたいと考えています。

(5) 入試・渉外領域

今年度は、広報入試委員会を立ち上げ、入試渉外委員と協働して生徒募集活動を行うことが出来ました。

広報活動は、委員会主体で教職員全員が本校とコース毎の教育内容を理解し、渉外活動が出来るよう研修会も複数回実施しました。募集活動を推進する中で自発的に参加する教員も現れ、積極的な広報展開を行うことができました。

業者等主催の相談会は、今年度(総計)340 名(昨年 323 名)、私学展では、昨年度同様の 141 名の参加者がありました。独自の相談会では、サマーフェスタ 147 名、オープンスクール 293 名(2 回合計)、進学説明会 550 名(3 回合計)となり、昨年度をはるかに上回る結果となりました。

校長として 47 校の中学校(校長先生・進路指導の先生への挨拶含む)を訪問し、各中学校の先生方や保護者に対する各種説明会でもプレゼンテーションを行い、本校の課題を発見するたびに、入試渉外委員や広報入試委員会に伝達し、それを反映させた入試渉外活動に発展させてもらうことができました。

今後も重点地域からの入学生をさらに確保するには、本校の教育と学校生活の充実を図り、生徒・保護者の満足度の向上を図ることはもちろんのこと、中学校と本校の連携をより丁寧に行うことが最重点課題となり、入試渉外活動の重要性を改めて認識する必要があります。また、重点地域以外の募集広報活動についても課題を抽出し積極的に進めていきます。

本校教職員は、学校改革途上の現状を十分に理解し、教職協同体制を以て生徒募集活動を行うことの重要性を再認識できた一年であったと思います。

(6) 教員の研修・研究領域

2020 年度から本格的に始まる大学入学共通テストや e ポートフォリオの導入など日々変化する教育現場において教員の研修は、非常に重要であると思われます。今年度は、できる限り教員に研修会へ参加してもらえるように情報を提供してきましたが、なかなか日常業務が忙しく、参加出来ない環境でした。その中でも、高校教員対象の駿台教育探究セミナーへの参加が複数名あったので、情報を教科の教員中心に伝達し、本校全体の教育に還元してもらいます。次年度は、管理職より情報を提供するだけでなく、教科会議の中でも研修の重要性を議論し、交代で研修会へ参加し、情報を教科内で共有します。また、場合によっては全体の研修会を開催し、教員全体で情報の共有をする必要があります。

(7) 経営領域

男女共学校への転換期において、3 号館 5 階のトイレ改修及び調理製菓科、普通科文理ハイレベルコースの 2 年生で使用する HR 教室の改修工事を行いました。

今年度、成績特待生制度の見直しを行ったものの期待していた削減には至っておらず、法人本部との協議のもと経費削減に向けた検討を進めます。

当初、将来構想計画案としていたスポーツコースと芸術コースについては、設備面や人材面において準備費用で大きな出費が予測されたことから、今後の入学者状況を見ながら慎重に計画を再検討していく必要性を感じています。また、基盤となるクラブ活動の整備を積極的に行い、男子バスケットボール部を新設し、次年度の男子バドミントン部の設置に向け準備を始めました。

また、情報教育の環境整備としてマルチメディア教室の Windows10 への移行について検討をはじめ、事業内容をまとめました。本事業は次年度予算として計上し、私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業として補助金申請することで対応を進めることとなりました。

保健室運営並びにカウンセリング体制において、全学科男女共学化に備えた改善が必要となり、あり方・運用について検討してきました。次年度は、養護教諭の数を増員し、カウンセリングルームの場所を移動させ、生徒が相談しやすい環境を整えることとなりました。

経営や財政改善を迫られる状況下の中で、1 学年 240 名の入学生を獲得できる学校にするため、効果的な方策の検討と効率的な経営改善に努めました。特に入試広報に関しては、全ての教員に広報活動ができるよう育成に努めました。調理製菓科の理解は当然のこととし、2019 年度からの普通科総合進学コース立ち上げにあたり 2 年次より選択できる「地域と社会系統」「言語と文化系統」「理数科学系統」コース及び保育系進学コース(1 年次より進行)の教育内容について、全教職員が共通認識を持てるよう研修会を開催しました。2019 年度は 217 名の新入生を迎えることとなりました。2020 年度こそは募集定員 240 名を越えなければならないと考え、広報部門における組織体制の見直しを行いました。

今後も「人、物、経費」による財政面で「絶対必要であるもの」への援助と我慢を強いるものを整理しながら経営計画に取り組み、本校のあらたな組織体制のもと、教職協働体制を構築していきます。

(8) その他の領域

昨年度に引き続き、藤井寺市教育委員会の後援を得て行っている書道教育研究会を開催しました。毎年郵送のみで、藤井寺市教育委員会へお知らせしていましたが、今年度は、担当教員と管理職で藤井寺市教育委員会へ出向き、書道教育研究会の重要性や日々の授業に役立つ内容であることなどについて紹介と説明をしました。その甲斐があり藤井寺市内の各学校の校長先生が集まる会にて説明させて頂く機会ができ、29 名の小学校・中学校の教員が書道教育研究会に参加し、大盛況で終わりました。

毎年行っているクラブ生を中心に教員も参加した校外清掃を今年度も行いました。

併設短期大学があった頃から続いている自然あふれる校内を開放し、地域の小さなお子さん連れのご家族も気軽に来校していただける環境も整備し、保育所園児の遊び場にもなっています。

本年度は、学校の安全ということを第一義に考え、職員室は本来、教員と生徒のためにあるという認識の下、職員室への外部からの入室を管理・制限しました。生徒の下校時間も決めて保護者にも通知し理解を得るように努めました。また、教職員の職場環境を整えるため、開館時間・閉館時間を定め、徹底管理を行っています。職員室内にある更衣室兼休憩室の利用が休憩室として活用促進されるよう考慮してきました。次年度は、クラブのあり方も熟考し、さらに教職員の職場環境・学校の安全について進めていきます。

資金収支内訳表

30年4月 1日から
31年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

科目	部門	大阪緑涼高等学校
学生生徒等納付金収入		136,896,035
手数料収入		10,504,100
寄付金収入		447,362
補助金収入		226,835,055
国庫補助金収入		0
地方公共団体補助金収入		136,218,590
地方公共団体授業料軽減補助金収入		90,616,465
資産売却収入		0
付随事業・収益事業収入		46,200
受取利息・配当金収入		38,106
雑収入		63,214,078
借入金等収入		0
計		437,980,936

支出の部

(単位:円)

科目	部門	大阪緑涼高等学校
人件費支出		500,851,729
教育研究経費支出		205,600,206
管理経費支出		43,236,469
借入金等利息支出		0
借入金等返済支出		0
施設関係支出		4,557,758
設備関係支出		7,338,571
計		761,584,733

※支出の部には、閉学した大阪女子短期大学を引き継いだ経費が含まれています。

事業活動収支内訳表

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

(単位:円)

科 目		部 門	
		大 阪 緑 涼 高 等 学 校	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	136,896,035
		手数料	10,504,100
		寄付金	665,090
		経常費等補助金	226,835,055
		付随事業収入	46,200
		雑収入	78,775,720
		教育活動収入計	453,722,200
	支事業の活動部	人件費	457,832,145
		教育研究経費	293,382,045
		管理経費	45,127,619
		教育活動支出計	796,341,809
教育活動収支差額		△	342,619,609
教育活動外収支	収事業の活動部	受取利息・配当金	38,106
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	38,106
	支事業の活動部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			38,106
経常収支差額		△	342,581,503
特別収支	収事業の活動部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	3,053,680
		特別収入計	3,053,680
	支事業の活動部	資産処分差額	4,385,600
		その他の特別支出	452,952
		特別支出計	4,838,552
特別収支差額		△	1,784,872
基本金組入前当年度収支差額		△	344,366,375
基本金組入額合計		△	5,632,872,461
当年度収支差額		△	5,977,238,836
前年度繰越収支差額		△	4,076,255,370
基本金取崩額			0
翌年度繰越収支差額		△	10,053,494,206

(参考)

事業活動収入計	456,813,986
事業活動支出計	801,180,361

※人件費、管理経費には、法人経費が含まれています。

※事業活動支出の部には、閉学した大阪女子短期大学を引き継いだ経費が含まれています。